

校友会新聞特集号～被災地訪問～

～荒浜小学校～

2017年11月11～12日にかけて被災地(宮城県岩沼市)訪問に行ってきました。



荒浜地区は仙台市中心部から東に10km離れた太平洋沿岸部に位置します。荒浜小学校は海岸から約700m内陸に位置し、3月11日の東日本大震災では児童や教職員、地域の住民ら約320人が避難し、2階部分にまで津波が押し寄せました。津波の脅威や教訓を後世に伝え、津波による被害を少しでも少なくし、犠牲者を減らすために、震災遺構として残されています。校舎には津波の爪痕が残されていました。津波の水圧によって大きく変形したフェンス、なくなっている窓ガラスを見て、津波の威力を改めて感じました。



今回被災地に行き、実際の被災地応援活動や、建物に残った津波の爪痕など多くのものを見聞きました。私は、災害の恐ろしさを改めて感じました。



玉浦小学校での岩沼のキッズチームとの演技発表と交流の様子です。地域の方々と校友会が時間をかけて作ったおにぎりやけんちん汁を、皆でいただきました。



～寄付金進呈式～

11月11日(土)に岩沼市民会館ホールで、寄付金進呈式とチアリーディング部の応援演技が行われました。文化祭の売り上げの一部を寄付金として進呈しました。寄付金は「千年希望の丘」という津波の威力を抑え、避難ができるように作られた、防潮堤の造成に使われます。



～千年希望の丘～

東日本大震災において沿岸部は特に大きな被害を受けました。そしてその大部分は大きな津波による被害でした。地元の方々は、物理的に防御しきれない津波の威力を知ったそうです。



岩沼市は、大自然の災害と共存していくために、大自然の力を完全に防御するのではなく、また大災害が起きた時に被害をいかに最小限に食い止めるかという「減災」の考えを持つ必要があると考え、まちづくりを進めてきたそうです。千年希望の丘は津波の力を減衰し、災害が起きた時避難場所としても活用できる公園として整備されています。

チアリーディング部の応援演技では、ご来場になった岩沼市の皆さんから手拍子や歓声をいただき、大成功に終えることが出来ました。進呈式が終わると、たくさんの方から「ありがとう」と声をかけていただきました。私たち駒澤大学高等学校と岩沼市の絆がより深まったと感じました。



～閑上地区～

宮城県名取市では、東日本大震災の影響で1027名の方が亡くなりました。地震発生後3分で名取市には大津波警報が出されました。しかし、不幸にもその地震の影響で町は停電し、防災無線は故障していました。大津波警報は住民のもとまで届いておらず、多くの方が犠牲になりました。

